

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	②-100	実施計画番号	126	事業開始年度	22
事務事業名	農畜産物のブランド化			事業終了年度	
担当課名	とわだ産品販売戦略課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	品質と生産力で優位にある品目を中心に、安全・安心に加えて食味と供給体制における優位性をアピールしていくことで「十和田ブランド」を確立する。また、メディア等の効果的な活用や野菜ソムリエと連携した、情報発信やPR活動を行う。				
事務事業の目的	安全・安心な農畜産物等のブランド化を推進することにより、十和田市のイメージを高めるとともに、生産者及び流通・販売業者の販売力向上を図る。				
実施状況	首都圏における十和田産野菜の評価や注目度が高まっている。首都圏飲食店や百貨店等の実需者を招へいた産地見学やサンプル食材の提供等により、野菜のみならず、十和田湖ひめます、十和田ガーリックポーク、十和田湖和牛などの取引が堅調に伸びている。				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	244	243	243
	人件費(千円)	8,784	8,748	8,748
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

## 【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		3,679	2,105	2,087

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		野菜ソムリエ及び有名実力シェフとの連携事業実施件数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回	8	6	3
	活動指標名②		首都圏飲食店等へのサンプル提供店舗数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			店舗	16	19	20
成果指標	成果指標名①		主要4品目(にんにく、ながいも、ごぼう、ねぎ)の販売額			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			億円	44	44	44
				47	58	
				107%	132%	
	成果指標名②		首都圏飲食店等の取扱高			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			万円	1,500	1,500	1,500
			1,487	1,733		
			99%	116%		

## 十和田市事務事業評価シート

### 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	①	<b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A 2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">特になし。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	特になし。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
特になし。										
②	<b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A 2							
<b>有効性</b>	③	<b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A 2	5	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">日本野菜ソムリエ協会との連携によりブランド推進を図ってきた結果、首都圏の野菜ソムリエを中心に十和田産野菜の評価や注目度が高まっている。 また、首都圏の著名な飲食店や大手百貨店の実需者を招へいして産地見学やサンプル提供等により、確実な取り引きに繋げている。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	1 / 6	日本野菜ソムリエ協会との連携によりブランド推進を図ってきた結果、首都圏の野菜ソムリエを中心に十和田産野菜の評価や注目度が高まっている。 また、首都圏の著名な飲食店や大手百貨店の実需者を招へいして産地見学やサンプル提供等により、確実な取り引きに繋げている。	
	成果向上の余地	1 / 6								
	日本野菜ソムリエ協会との連携によりブランド推進を図ってきた結果、首都圏の野菜ソムリエを中心に十和田産野菜の評価や注目度が高まっている。 また、首都圏の著名な飲食店や大手百貨店の実需者を招へいして産地見学やサンプル提供等により、確実な取り引きに繋げている。									
④	<b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A 2							
⑤	<b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B 1							
<b>効率性</b>	⑥	<b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A 2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">特になし。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	特になし。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	特になし。									
⑦	<b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A 2							
⑧	<b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A 2							
<b>公平性</b>	⑨	<b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A 2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ブランドの推進に関する取組により、十和田産品はもとより十和田市全体のイメージアップにつながるものである。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	ブランドの推進に関する取組により、十和田産品はもとより十和田市全体のイメージアップにつながるものである。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
ブランドの推進に関する取組により、十和田産品はもとより十和田市全体のイメージアップにつながるものである。										
⑩	<b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A 2							
			現在の適性	19 / 20	改善の余地	1 / 20				

### 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

### 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

さらに重点化を図る

#### 方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

十和田産農畜産物のブランド力向上のため、日本野菜ソムリエ協会や関係団体との連携を一層強化する必要があるため。

#### 今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

日本野菜ソムリエ協会との連携強化及びフェア等におけるトップセールス等を実施する。